連載

いのちのひろば（21）

毎月１回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと

子宮頸がんは早期発見・治療が可能な病気なので、まずは検診受診が重要です。若年者においてはＨＰＶワクチンの接種が予防に効果的なことが分かってきました。

子宮頸がん予防ワクチン（ＨＰＶワクチン）の今

小田原市立病院　丸山　康世

子宮頸がんとＨＰＶワクチン

子宮頸がんは子宮の入り口にできるがんで、本邦で年間約1万人が新規に診断され、若年女性（25～44歳）に多く、年間約３０００人の方が亡くなられます。原因として、性交渉によりヒトパピローマウィルス（ＨＰＶ）に感染し、感染が長い期間にわたると前がん病変（がんになる前の段階）を経て発症することがほとんどです。予防は、子宮頸がん検診とＨＰＶワクチンを可能であれば性交渉開始前に接種することです。

子宮頸がんは初期のＩ期であれば5年相対生存率は92・4％ですが、進行したＩＶ期では19・5％と低下します。このため早期の発見、治療が望ましいです。

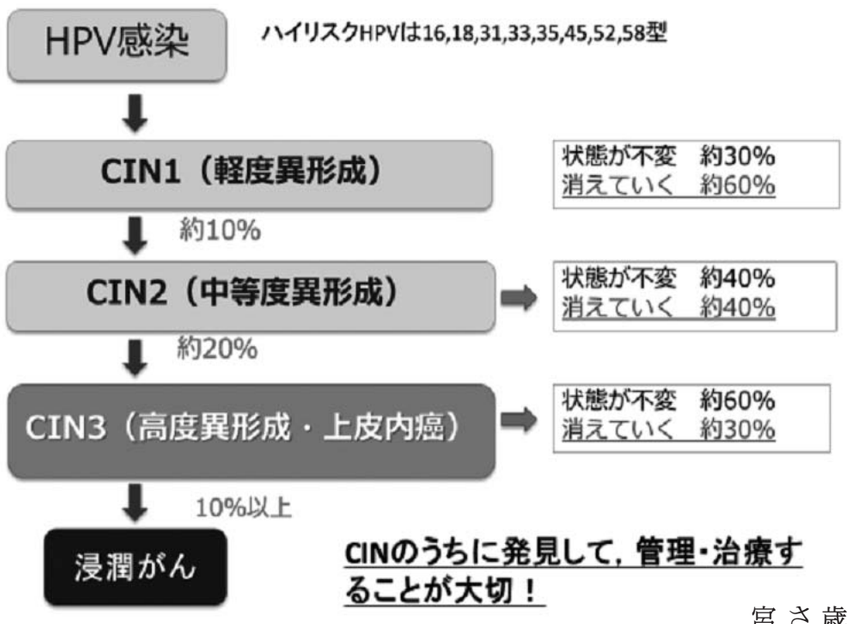
早期であれば、子宮を残せ妊娠が可能な場合もありますが、進行すると幅広く子宮を取る手術（広汎子宮全摘術）、放射線治療と化学療法を同時に行う治療、放射線治療単独などの治療法があります。ただし妊娠は困難となり、排尿障害、下肢のリンパ浮腫などを起こす可能性もあります。

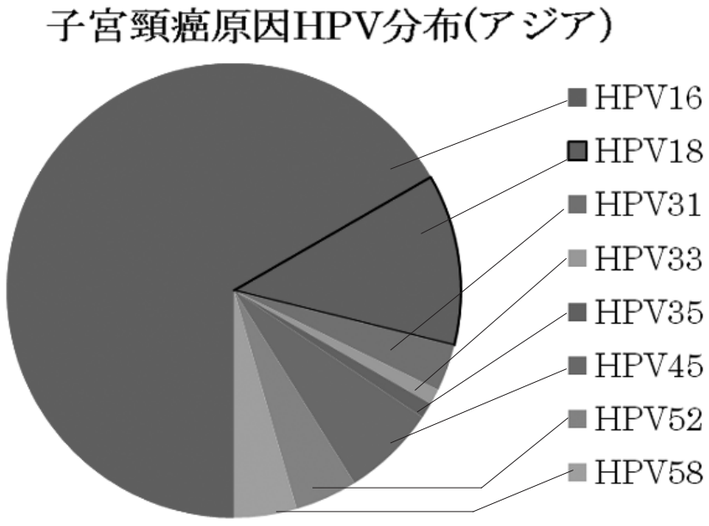
ＨＰＶ感染を起こすと、異形成（ＣＩＮ）という前がん病変を引き起こすことがありますが、多くは自然に消えていきます。

このため、異形成の状態で見つけることが重要です。子宮頸がん検診（20歳以上、2年ごと）が推奨されており、日本では子宮頸部をこする細胞診により行われています。ＨＰＶがいるかいないかを検査を併用して行う場合もあります。国によってはＨＰＶがいるかいないかの検査を初めに行っています。

中等度異形成、高度異形成であれは円錐切除術という出口のところを切る手術で浸潤癌の予防、子宮を残すことが可能ですが、切迫流産・早産の増加などの危険性もあります。

しかし日本の子宮頸がん受診率は40％と低く、早期発見が難しい状況です。





副反応の可能性があるもの

病気の名前	主な症状	報告頻度※
アナフィラキシー	呼吸困難，じんましんなどを症状とする重いアレルギー	約96万接種に1回
ギラン・バレー症候群	両手・足の力の入りにくさなどを症状とする末梢神経の病気	約430万接種に1回
急性散在性脳脊髄炎（ADEM）	頭痛，嘔吐，意識の低下などを症状とする脳などの神経の病気	約430万接種に1回
複合性局所疼痛症候群（CRPS）	外傷をきっかけとして慢性の痛みを生ずる原因不明の病気	約860万接種に1回

（※2013年3月までの報告のうちワクチンとの関係が否定できないとされた報告頻度

ADEM，CRPSに関しては，検討の結果自然発生を上回らず，因果関係がないと結論付けている国がほとんどである

予防効果期間は接種から約15年

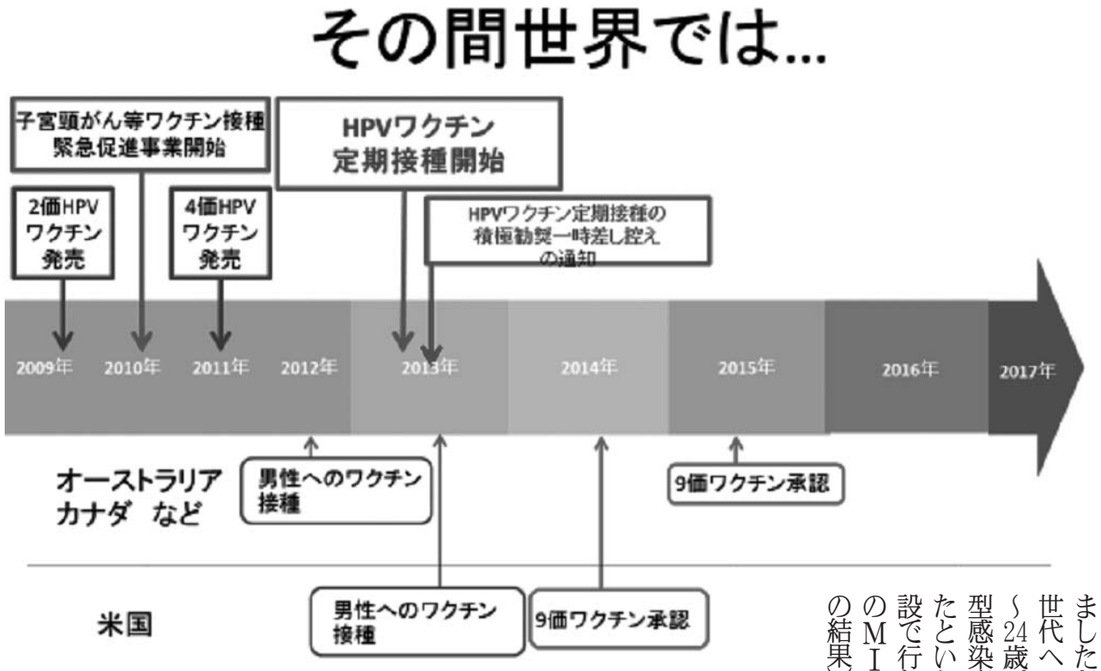
ＨＰＶにはタイプ（型）があり１００種類位が知られていますが、発がん性があるものは約20種類です。ＨＰＶワクチンは、ＨＰＶに感染する前に接種することで、感染を予防するワクチンです。２００９年より最も子宮頸がんを引き起こす16型、18型を予防する２価ワクチンが、２０１１年より16型、18型、６型、11型を予防する４価ワクチンが販売開始され、接種が広まりました。２０１３年４月、ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がん予防）がＡ類疾病に指定され，中学１年生となる年度の女子に対する定期接種となりました。予防持続効果は少なくとも15年程度とされています。

このワクチンにより、期待される子宮頸がん罹患者数の減少は、10万人当たり８５９～５９５人。期待される子宮頸がん死亡者数の減少は、10万人当たり２０９～１４４人とされています。

しかしＨＰＶワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛がこのワクチン接種後に特異的に見られたことから、副反応の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではないとされ、２０１３年６月にＨＰＶワクチン定期接種の積極勧奨一時差し控えの通知がなされました。

機能性身体症状とＨＰＶワクチンとの科学的な因果関係は現時点では明らかになっていませんが、針を刺すということで局所の疼痛で起きている可能性があります。いずれにしても、発症した場合に適切な診察、対応をとることが大切であり、現在では診療体制が整備されています（「ＨＰＶワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」日本医師会／日本医学会）。

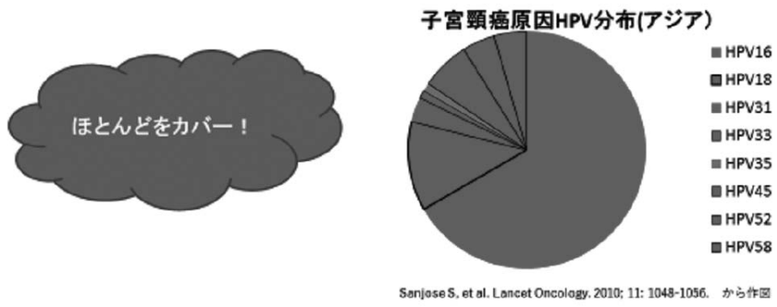
この積極的勧奨の中断の後、接種率の劇的な低下がみられましたが、接種を行った世代への効果として、20～24歳ではＨＰＶ16／18型感染率が有意に低下したという報告（国内21施設で行われた２０１７年のＭＩＮＴ ＳＴＵＤＹの結果）があります。



9価ワクチン

Gardasil 9

HPV16,18,31,33,45,52,58型　＋　6, 11型



ＨＰＶは子宮頸がんを引き起こすだけでなく、男性の陰茎がん、男性、女性とも口腔咽頭がんを引き起こすことがわかっています。このため、オーストラリア、カナダ、アメリカは男性にもＨＰＶワクチンの接種を開始しています。そして現在はＨＰＶ６、11、16、18、31、33、45、52、58型と幅広く対応する９価ワクチンの接種が主流となっています。

まとめ

子宮頸がんは早期発見・治療が可能な病気で、まずは検診受診が重要です。日本では積極的勧奨の中断後、接種率は大幅に減少したままですが、一方で接種した世代への効果は明らかになってきています。定期接種をうける必要性の理解が必要です。

（まるやま・やすよ　香川医科大学卒、横浜市大産婦人科入局、２０１４年より小田原市立病院産婦人科勤務、産婦人科専門医、婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医、がん治療認定医。）

次回は1月中旬に掲載「ヒートショック」についてお伝えします。

小田原医師会　地域連携室から…

急病になった時は…

まず、かかりつけの医師に電話で相談してください。日頃から急病の時どうするか、かかりつけの医師と話し合っておきましょう。

医療機関検索は小田原医師会のサイトから利用できます
http://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/

かかりつけの医師が不在の場合は…

平日・土曜の昼間	地域医療連携室が医療機関をご案内 TEL.0465-47-0833
休日の昼間・夜間	小田原市休日夜間急患診療所へお電話 TEL.0465-47-0823
休日の深夜	午後10時以降は小田原消防署へお電話 TEL.0465-49-0119

休日・夜間の急患診療所はこちら

小田原市保健センター　内
小田原市酒匂2-32-16 / TEL 0465-47-0823

◆休日（日曜日・祝日）
受付時間：8:30～11:30，13:00～15:30
診療科目：内科・小児科・耳鼻咽喉科

◆土・日・祝日の夜間
受付時間：18:00～22:00
診療科目：内科・小児科

◆平日の夜間
受付時間：19:00～22:00
診療科目：内科・小児科

身近なニュースをお届けする日刊紙『神静民報』ご購読のお申し込みは下記の販売店へ　●定価1ヵ月2,000円　●1部売り90円　小田原市立病院売店、大雄山線小田原駅・大雄山駅改札、カフェ・リーフで1部売り好評発売中!

小田原地区
■読売新聞　読売センター　小田原報徳　☎0465(36)3683
小田原西部店　☎0465(35)0746
小田原中央店　☎0465(24)5050
酒匂店　☎0465(48)0007
■毎日新聞小田原中央販売所　☎0465(87)5313
■ASA小田原(有)曽和新聞店　☎0465(23)3300
■毎日新聞小田原北部販売所　☎0465(34)7538
■ASA鴨宮　☎0465(47)5422
■読売新聞鴨宮専売所　☎0465(47)3644
■ASA国府津　☎0465(47)2568
■読売新聞(有)佐藤新聞店　☎0465(47)3351
■ASA小田原富水　☎0120(36)3775
■ASA栢山　☎0465(37)1767
■ASA小田原東部　☎0465(24)3012
■今井新聞店　☎0465(42)0340

足柄下地区
■(有)湯本新聞販売所　☎0460(85)5264
■真鶴・湯河原新聞販売所　☎0465(63)3399
■読売センター湯河原　☎0465(62)7889
■ＡＳＡ湯河原　☎0465(62)6834

南足柄・足柄上地区
■読売新聞　読売センター小田原城北店　☎0465(74)9061
■(株)内藤新聞店　開成店　☎0465(83)3500
南足柄店　☎0465(72)0234
■南足柄新聞店　☎0465(74)0281
■大井松田新聞店　☎0465(82)0574
■杉山新聞店　☎0465(75)0356

秦野地区
■読売新聞秦野専売所　☎0463(82)0290
■(有)北湘読売開発　☎0463(82)7335
■渋沢東部新聞販売店　☎0463(87)3680
■ASA渋沢　☎0463(88)0589
■栗原新聞店　☎0463(88)0058

二宮・大磯地区
■毎日国府本郷専売所　☎0463(72)3272
■ASA二宮　☎0463(71)1157